

月	栽 培 管 理
1	<p>【整枝剪定】 細部の剪定は1月下旬までに終了する。 一年枝は全部取らずに横から出ている弱い枝は残しておく。</p>
2	<p>【受 粉】 着果を安定させるために開花に合わせて ミツバチで交配させる。一箱/10 a</p>
3	<p>【春肥施用】3月中旬 梅配合 80kg/10 a 樹勢を安定させ着果後の肥大の促進が目的。大玉作りには欠かせない肥料。</p>
4	<p>【摘 果】(4月中旬～下旬) 果実肥大を促進させるために小玉果や群状結実しているところを整理する。果実が大豆大になった頃、短果枝(15 cm以下)は1枝に1果、中果枝以上は5cm間隔で1果にする。 手の届く範囲だけ行っても効果は大きい、梅酒用品種(白加賀等)では、2L以上と未満では価格が大きく違う。肥大の悪いスソ枝・フトコロ枝も一緒に摘果する。 晩霜が心配な窪地園等は時期を少し遅らせる。</p>
5	<p>【収 穫】 梅酒用： 大きいものから順次収穫し収穫後の直射日光を避ける。</p>
6	<p>漬梅用： 青みが抜けた大きいものから順次収穫する。</p>
7	<p>※ 農薬の収穫前日数を遵守する。</p> <p>【礼 肥】(5月下旬～7月中下旬) 梅配合 120kg/10 a 樹勢の回復と翌年の花芽を充実させるために一番重要な肥料。</p>
8	<p>【夏季剪定】(8月中旬～9月中旬) 縮間伐を行い周囲から光が当たるようにすることと、立ち枝(覆う枝)の間引きで樹の内部まで</p>
9	<p>光が入るようにする。樹勢が弱い木には行わない。</p>
10	<p>【石灰の施用】(10月上中旬) 苦土石灰 200kg/10 a 【秋肥施用】(10月中下旬) 梅配合 120kg/10 a</p>
11	<p>【冬季剪定】(11月～12月) 縮間伐と骨格作りを重視し、主枝の配置や内向枝・平行枝等の切除をする。</p>
12	<p>※ツボミを傷めないように年内にノコギリ剪定(太い枝の処理)を終了させる。</p>
	<p>【ポイント】 ※着果安定を図るには、授粉樹を10m以下に隣接するように配置する。 ※ミツバチによる交配で結実させ早期に摘果をすること。 ※収穫後の「礼肥」で樹勢を回復し、夏季剪定で枝葉を充実させて連年着果させる。 ※「灰星病・かいよう病・黒星病・すす斑症」の防除を徹底し、罹病枝は必ず取り除き園外廃棄する。</p>